

第592号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2018年 7月 17日
 発行責任者 喬木村公民館長 徹
 市 瀬 公民館編集部長 志
 編集責任者 公民館編集部長 志
 印刷 龍共印刷株式会社

明治維新百五十年記念講演 「知久家の明治維新」

講師 立正大学文学部 藤井明広先生

六月十六日喬木村史学会総会が行われ、合わせて記念講演が開催されました。今年には明治維新から百五十年にあたり、明治維新と維新以後の知久家と知久家を支えた旧家臣団や領民等の関わりについて、喬木村資料館に保存されている知久家文書から解き明かされた歴史を立正大学の藤井先生にお話ししていただきます。先生が知久氏の研究を始めたきっかけは、ネットオークションにて購入した河野文書を読み解き、目録作成の中で知久氏を知る事が重要であると認識をしたからだそうです。それから度々資料館へ足を運ばれ知久氏の研究をされて



久家の明治維新 藤井明広先生
 〇年記念講演
 立正大学文学部史学科

上、下久堅等へのチラシ配布、マスコミ等による情報提供の結果、百名余の聴講者で会場は満杯となり、資料不足等ご迷惑をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。

明治維新を迎えた知久家は、いち早く新政府へ恭順の意を示し、土族を返上、平民の道を歩むことになりました。旧家臣と共に始めた事業に失敗、経済的困窮に陥ります。そして頼謙の嫡子頼温の病死、さらに五年後には頼謙が亡くなり、知久家は明治維新とともに衰退していきます。

知久家復活の活動は頼温の死後再開されます。西の宮に建立された知久家復活の碑には、知久家復活のため義捐金(米)を提呈した、阿島区、田村区、河野区始め旧家臣、領民の名前が刻まれています。また、先生は「錦の母衣」について、徳川十一代將軍徳



「合同部活動」には学校はもとより保護者や地域の理解が必要で、クリアしなければならぬ課題も多いが、生徒がやりたい部活動に取り組めることを保証する施策にしてほしいと思う。そして、青少年のスポーツ活動、ひいては生涯スポーツの振興や地域の活性化につながっていくことに期待したい。

(館長)

六月二十二日、第一回の公民館平和学習会は、満蒙開拓平和記念館の事務局長の三沢重紀先生にご講演を頂きました。原爆の投下に比べて「満蒙開拓」がなかなか語られてこなかったのは、その悲惨さだけではなく国策として推進されたがゆえに、送り出す立場にあつた人と送り出される側の人が同じ地区内にいたことや、実際には現地で暮らしを営んでいた人々への加害の歴史にも向き合うことなることを挙げられています。

その場に身を置いてみて、初めてその語りかけるものに耳を傾けられるのだと、あらためて思いました。その時その場では実に様々な立場の人達が生きたくわけて、残された資料や証言から、出来るだけ多くの立場に立ってみる事が大切なのだと思いました。

送り出す側の立場にあつた村長さん達の現地視察に訪れた際のお話がありました。そこで目にした現地の人の対する日本人の横柄な態度から、何かおかしいと感じ取り村民を送り出さなかつた村長さんがいたことについて、「その人を英雄視するつもりはありません」

と、おっしゃっていました。同じものを見ても、国策に反対の意を表明できずに悩み苦しんだ末に村民を送り出してしまった村長さんもいたのです。もしそこに私が居たならどうだったのか、私の中にもそのような「弱さ」が無いと言いつけるのでしょうか。間違いのものを自分の中に見ることは痛みを伴いますが、それがまた訂正への第一歩なのです。「自分に向き合っていくのは大変です。だから周りの人の力も借りて向き合っていく方がいいのではないかと思います」とは記念館を訪れた中学生の感想です。このようにして共に学び、



平成三十年 第一回公民館平和学習会
 「満蒙開拓」の歴史が語りかけてくるものに参加して

全体としての私達が進んでいくのだと思います。「負の遺産」はそれが正しく見つめられ、今に活かすことが出来る様になるまではそこ

に耳を傾けることが私達には求められているのだと思えました。記念館はそのことを共に学ぶ場として私達に開かれているのです。

盆踊り練習会開催

公民館社会部では、ふるさと祭りより多くの方に盆踊りを楽しんでいただけるよう、今年も盆踊り練習会を開催します。

日時 八月九日(木) 午後七時〜
 場所 福祉センター 多目的ホール

初めての方も大歓迎!!
 どうぞお気軽にご参加ください。

あこの時

今、中体連の大会が真っ盛りだ。中学生が死力を尽くして闘う姿は爽やかで清々しい。

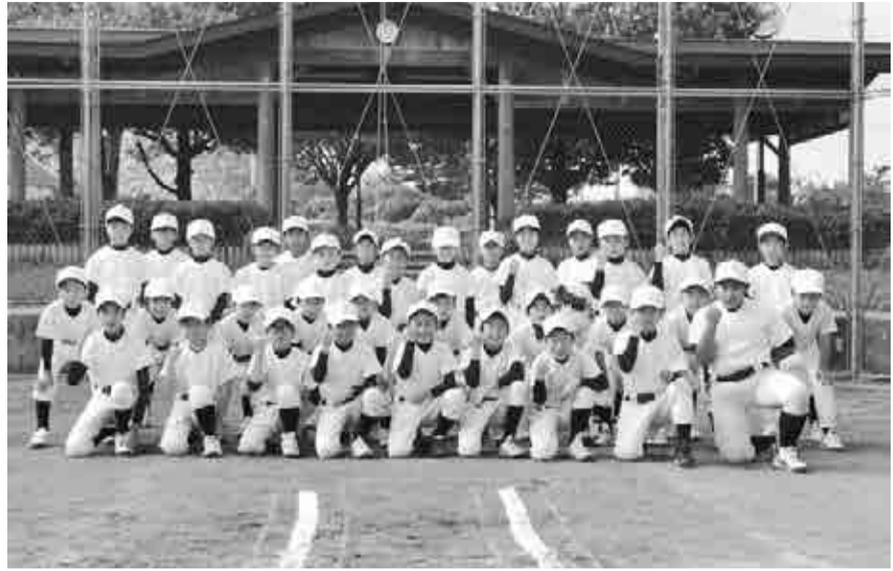
長野県教育委員会は、今年から複数の中学校で運動部を運営する「合同部活動」の支援を始めた。少子化が進み、部活動を単独で運営することが難しくなってきたから。飯田下伊那は中山間地の小規模中学校が多いので、ずいぶん前から部活動の運営には苦慮してきた。部の数を減らし、種目を個人戦のある卓球やテニスに変更して運動部の存続を図ってきたのだ。中体連には単独校では大会に出場できない部を救済するため、合同チームを認める規定がある。しかし、不足する学校同士、あるいは不足する学校が部員の多いチームから選手を借りるといった規定で、私は「出場はさせてやる」という上から目線に感じていた。平日にも合同練習ができるなど地域性を考慮したものであるべきだと考え、不足する学校が近隣の足りている学校と合同チームを組むことを県下に先駆けて認めた。しかし、「補強ではないか」という批判も受けた。今考えると「合同部活動」の先駆けであったと言えるかもしれない。

「合同部活動」には学校はもとより保護者や地域の理解が必要で、クリアしなければならぬ課題も多いが、生徒がやりたい部活動に取り組めることを保証する施策にしてほしいと思う。そして、青少年のスポーツ活動、ひいては生涯スポーツの振興や地域の活性化につながっていくことに期待したい。

(館長)

そうだ！ みんなで野球をしよう！

喬木少年野球クラブ



喬木少年野球クラブでは、野球を通じて健全な精神の向上を図り、道具を大切に持つ気持ち、礼儀の大切さ、感謝の気持ち、チームメイトとの協調性を養います。野球が初めてのお子さんでも大歓迎です。

平成30年度 分館対抗 女子ソフトパレーボール大会

七月一日(日)、分館対抗女子ソフトパレーボール大会が中央社会体育館と中学校体育館を会場に開催されました。十二分館から十五チームに参加いただき、各分館が練習の成果を発揮し、白熱した試合が繰り広げられ、若い人から先輩の方まで一緒に楽しんで楽しい大会となりました。結果は次のとおりです。

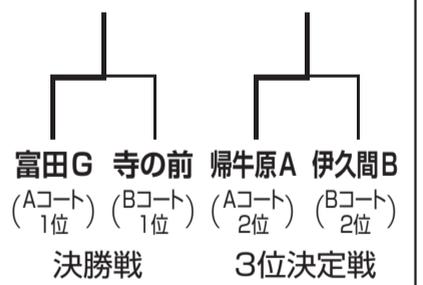
分館対抗 女子ソフトパレーボール大会



中央社会体育館 優勝 富田G

中央社会体育館会場

優勝：富田G
準優勝：寺の前
3位：帰牛原A



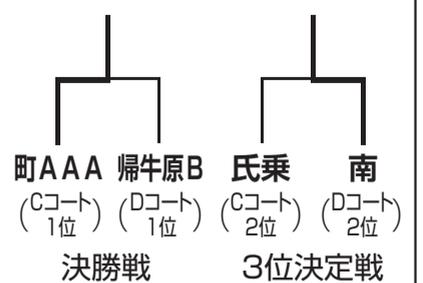
分館対抗 女子ソフトパレーボール大会



中学校体育館 優勝 町AAA

中学校体育館会場

優勝：町AAA
準優勝：帰牛原B
3位：南



水無月歌会詠草

たかぎ短歌会

わが後に住む人なきを案ずるに
庭師は松を形良く整う

学校の教師を退きて幾年過ぐ
しずかに今日は誕生迎う

二人目の曾孫誕生待つ春よ
椿の葉っぱも輝きを増す

朝採りの野菜を出せば馴染み客
「おいしそうね」と笑顔が返る

公文書の改ざん破棄とはなに故か
不起訴処分を疑う

水無月のどんより曇る我が庭に
石竹の花ひとときわ映える

小椋 りよ

桐原 邦夫

関島 春子

木下 寿子

知久 美子

原 健彦

大鍋に朝採りのフキ甘く煮て
帰省する次男を夫と待ちいる

九十歳の女性に負けじと眼を凝らす
認知症検査の問いを前にし

それぞれに己が緑を主張して
山がもくもく膨らみてくる

胡瓜苗を植ゑる児ポット集める
児孫らは身軽に手伝ひくるる

母の享年越へて十年余を
生きる身の有難く切なくもあり

山裾の村に子供の少なきか
矢車の音絶えて久しき

老いの脚ステイックを手に球を打つ
地域のまどめとゲートボールに

馬耕にて田畑うなひし時代ありき
資料館にて馬鍬は錆びぬ

田中 妙子

市瀬 准子

元島 康子

内山 和子

木林 睦枝

大村 初見

多田 昭

福澤 亀人

第十三回 武田信玄狼煙上げのお知らせ

富田城山・加々須茶臼山で狼煙上げを行います

戦国時代の知将、武田信玄が情報伝達の手段として、伊那谷から諏訪、そして甲斐へと築いた武田信玄の狼煙を再現し、地域の大切な歴史文化を世代を越えて学び合い、地域と地域、人と人のつながりを深めることを大切にしています。近い将来、南信州から甲府までを狼煙でつなごうという、夢とロマンを感じる取り組みです。

富田分館では武田信玄狼煙会より二年早く、狼煙上げイベントに取り組みしており、今年が十三回目となります。



実施日 八月二十五日(土)
雨天の場合は 二十六日(日)
時間 十時
場所 富田城山
加々須茶臼山

編集後記

七月五日全村に、避難準備、高齢者避難開始が発令された。それを受け、各自自治体では避難所を開設した。この様な事は慣れてないのが普通なので、みんな手さぐりだったのではないかと。雨は少なかったが、今までの降り方や雨量などから危険として発令されたと思う。この様な時は早め早めにした方がいいと思う。何もなければそれにこしたことはないの、早めに行動した方がいいのではないかと。テレビで難所を見る事が多かったが、現実になると、いろいろと不足の物が出てくる。昔とは災害がかわっている。早め早めに。